

④6 滝沢市交流拠点複合施設整備事業 ～みんなでつくるふれあいの大屋根～

受賞機関 滝沢市

全建賞審査委員会の評価ポイント

ユニバーサルデザインを設計段階から取り入れ、コミュニティセンターや市立図書館等の複合施設を整備した事業。利用するすべての方に「分かりやすい、使いやすい、親しみやすい」ユニバーサルデザインを目指し、市民参加のワークショップを経て、空間構成、サイン等のデザインを工夫しており、多くの市民が集う地域交流の場となっていることを評価。

1. はじめに

滝沢市は、平成26年1月に滝沢村から単独で市制移行した市であり、県都盛岡市のベッドタウンとして宅地開発が盛んに行われ、急激に人口が増加し、現在5万5千人を超えている。その一方、市内には昭和40年代に建設された公民館（小規模な図書館併設）が一つしかなく、市民の活動の場が飽和状態になっていることや市内には観光情報等を発信する場がないことから、これらの複合的な機能を市役所前に集約し、拠点化することにより、市民の交流や賑わいを促進させるため、「滝沢市交流拠点複合施設（ビッグルーフ滝沢）」の整備を行った。

2. 事業の概要

本事業は、コミュニティセンター（ホール、会議室等）、図書館、産業創造センター（観光案内、産地直売、レストラン）の3つのゾーンからなる地上2階建、鉄骨造、延床面積6,356.88㎡の大きな屋根が特徴的な複合施設とし、敷地内に400台の駐車場やたきざわ広場、災害対応のための防災広場、多目的調整池を一体的に整備したものである。



滝沢市交流拠点複合施設（ビッグルーフ滝沢）

3. 事業の成果

設計時点から利用するすべての方に「分かりやすい、

使いやすい、親しみやすい」を目指したユニバーサルデザインを取り入れ、市の伝統行事である「チャグチャグ馬コ」をモチーフにした色使いやサイン等を配置したり、トイレについては様々な大きさのブースにすることやあえて右開きや左開きのドアを配置する工夫をした。また、例えば大ホールは、舞台（音楽）利用や客席を撤去した平土間利用に展開できる構造とするとともに可動式の間仕切りにし、部屋の大小を自由にする等、多重使いができるような仕組みとした。これらは、繰り返し開催されたワークショップで話し合われ、「みんなでつくるふれあいの大屋根」は、まさに多くの市民参加により、みんなでつくりあげられた。

施設は、平成28年12月にプレオープン、平成29年4月にグランドオープンし、平成29年5月現在で約22万人を超える来館者にご利用いただき、既に年間目標20万人を超え、交流と賑わいの創出につながっている。



市民が集うふれあい広場

4. おわりに

滝沢市交流拠点複合施設（ビッグルーフ滝沢）を、人と人、人と文化、人とまちが交流し、基本理念である「生きがい、発見、創造」のもと、これからも「みんなでつくりつづけるふれあいの大屋根」として、市民とともにみんなで成長する施設にしていきたいと思う。

なお、本事業は国土交通省直轄（都南川目道路）の残土提供により造成を行ったことや隣接県道拡幅工事等、多くの関係者のご協力をいただき、完成することができました。この場を借りて改めてお礼を申し上げる次第である。

賛助会員 三井住友建設(株)、ミサワ環境技術(株)、岩手電工(株)